

2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	壁式鉄筋コンクリート造設計・計算規準小委員会	主査名：稲井 栄一 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (壁式構造運営委員会)	委員長名：五十田 博 (主査名：西田 哲也)
設置期間	2021 年 4 月 ～ 2025 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>2017 年 4 月～2021 年 3 月の期間に設置された「壁式鉄筋コンクリート造設計・計算規準小委員会」においては、「壁式鉄筋コンクリート造設計・計算規準・同解説 2015 年版」の改定に向けての基礎資料を収集・検討し、壁式構造建物の普及を図るため、耐震等級・優良住宅認定に向けての条件検討、構造解析モデルの検討、地盤・WRC 建物の相互作用効果の検討を行った。本小委員会では、これらの検討結果を反映させた規準改定を 2023 年度に行う。</p> <p>初年度：壁式構造建物の普及を図るため、長期優良住宅、耐震等級 3 となるための条件、および壁式構造のモデル化、構造物・地盤相互作用効果に関する原案作成、改定版の本文原案の検討</p> <p>2 年度：「壁式鉄筋コンクリート構造設計・計算規準および同解説（改定版）」の本文・解説原案の作成、取りまとめ</p> <p>3 年度：壁式構造運営委員会および構造本委員会の査読および査読コメント対応ならびに最終版の作成、改定版の刊行</p> <p>4 年度：質問に関する回答作成等、問題点の整理</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：稲井栄一(山口大学) 幹事：楠浩一(東京大学)、井上芳生(INO 建築構造研究室) 委員：秋山裕紀(都市再生機構)、飯塚正義(プレハブ建築協会)、向井智久(建築研究所)、 勅使川原正臣(名古屋大学)、岡野創(千葉大学)、飯場正紀(北海道大学)、高木次郎(首都大学東京)、岡部喜裕(力体工房)、田中材幸(アールエス)、尾崎純二(萩森興産)、秋田知芳(山口大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	壁式 RC 構造解析モデル WG：立体解析が一般的な市販の解析プログラムを、「壁式鉄筋コンクリート造設計・計算規準・同解説」に記載の解析モデルに適用する際の課題および指針案を検討することを目的としている。 壁式 RC 動的相互作用検討 WG：壁式 RC 造建物の動的相互作用効果を検討する。	
2022 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：—

項 目	自己評価
委員会開催数	壁式 RC 構造解析モデル WG 5 回 壁式 RC 動的相互作用検討 WG 1 回 小委員会 + 2 WG 合同委員会：1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	なし
講習会	なし
催し物 *能力開発支援事業委員会承認企画	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 改定版の本文原案作成は今年度中に完了予定。 2. 動的相互作用の検討がおこなわれている。
委員会活動の問題点・課題	上記 2 の検討の進捗によっては、改定は 2024 年度になる可能性がある。